



TITLE:

# 『京都大学大学文書館研究紀要』 編集要項, 編集後記

AUTHOR(S):

---

CITATION:

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項, 編集後記. 京都大学大学文書館研究紀要 2009, 7: 101-102

ISSUE DATE:

2009-02-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/70920>

RIGHT:

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

## 編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第7号をお届けいたします。

京都大学大学文書館の研究活動には、大学史・高等教育史研究とアーカイヴズ学研究の二つの側面がありますが、本号はその両面がよく反映された内容のものとなりました。

第三高等学校を事例として近代日本の留学生教育の実態を追究した厳論文は、当館所蔵の『第三高等学校関係資料』や外国の資料を縦横に活用し、官立高等教育機関における留学生教育の詳細を明らかにしています。また、「大学自治」の原理的考察をおこなった河西論文は、長谷川如是閑における大学論の展開を中心としつつ、他との比較考察をおこなうことで、当該期の長谷川大学論の相対的な位置づけを試みています。ともに大学史・高等教育史研究に新しい視点を提示しているものと言えます。

一方、ネットワーク時代という視点から、アーカイヴズの利用サービスについて検討した田嶋研究ノートは、幅広い調査に基づき、アーカイヴズの利用サービスに関する規則・規程の現状と方向性を示しています。今年度、大学文書館は所蔵資料検索システムを一般公開しましたが、ネットワーク時代におけるアーカイヴズの個々の業務の在り方については、理論・実務の両面から捉え直す必要があるように思います。

如上のように、本号には大学史・高等教育史研究ならびにアーカイヴズ学研究にかかわる多彩な論考を掲載することができました。大学文書館では、今後ともこうした研究活動に積極的に取り組んでいく所存です。読者の皆様には、是非忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、引き続き大学文書館へのご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

(大学文書館助教 清水善仁)

---

### 京都大学大学文書館研究紀要 第7号

---

2009(平成21)年2月27日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒604-8277 京都市中京区三坊西洞院町572

NOA 高松殿ビル6F

電話 075(252)5421

---